

刈谷市 歴史 博物館 NEWS

Vol. 10
2022.07

Kariya city Museum of History NEWS

CONTENTS

Next Exhibition [次回展示] -----	1
Description [解説] -----	2-3
Report [報告] -----	3
Information [ご案内] -----	4

NEXT Exhibition 次回展示

企画展「TSUNAGU—甦るモノたち—」

開催日 2022年7月16日(土)～9月4日(日)



▲「伝月僊筆 三国志図屏風」修復作業

2022年は、博物館法施行から70年にあたります。本展では、博物館の骨子である「保存」「活用」に焦点を絞り、これまで修復等が行われた刈谷市指定文化財「静観堂屏風」（金勝寺蔵）や「澤梅谷筆山水図」（当館蔵）など市内の資料およびその修復過程について展示し、資料を守り後世に伝えること（TSUNAGUこと）の意義を提示します。

また「水野勝成画像」（複製、原本：賢忠寺（広島県福山市）蔵）や浮世絵などの複製資料の展示も行い、原本公開による活用が難しい資料へのアプローチとしての複製という視点を示します。

※記載内容は予告なく変更することがあります。

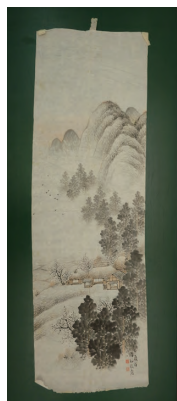
資料紹介「澤梅谷筆 山水図」(令和3年度寄贈・修復)

本作は、令和3年度に個人から寄贈を受け、その後修復を行いました。本稿では、あまり知られていない日本画の修復過程をご紹介します。

■ 澤梅谷 (1868-1928)

本名は理、通称は理喜三郎。「梅谷」は画号です。はじめは知多郡の教員として教鞭をとっていましたが、のちに半田を拠点として活動していた山本梅莊 (1846-1921) に師事し、南画家 (中国の南宗画を基とする「南画 (文人画)」を描く画家) としての道を歩みました。

■ 修復前の資料データ



寸法：縦 1,335 × 横 510 mm

品質：紙本墨画淡彩

落款：庚申歳首 / 梅谷敬寫 白文方印「澤理」 朱文方印「梅谷」

本作は、澤梅谷が大正9年 (1920) の初めに制作した作品であることが、落款 (絵師のサイン) から判明したものです。こうした年代が明記されている作品のことを「基準作」と言い、制作者の画風変遷などを考える上で重要なものとなります。

品質とは、その作品が「どういったもの (絹や紙、板など) に」「どういった画材で」画題を表現しているか、を示しています。今回の作品は「紙本 (和紙に描かれている)」「墨画淡彩 (水墨画を基本として、部分的に色を施している)」ものです。

■ 修復前調査

作品の修復にあたり欠かせないのが、修復前の資料調査です。本作は寄贈を受けた際、本紙のみが折れた状態であったため、折れのあとがシワとして残ってしまっていました。カビに起因すると思われる茶色いシミもあり、山際の色味などが色あせているように見受けられました。幸いにも、虫食いの穴や大きな破れなどは見られませんでした。

■ 修復工程

今回の修復において重要であるのは、次の2点でした。

- ・全体の折れジワとシミの除去をすること
- ・本紙 (作品部分) のみしかないため、掛軸にして展示できるようにすること

そのため、修復工程は全体の洗浄と表装の新調に留め、次のとおりに工程を設定しました。

① 蒸留水 (pH7) による本紙の洗浄



意外に思われるかもしれませんが、日本画の修復をする場合は、水を使用することが多くあります。今回は pH7、つまり中性の蒸留水を吹き付け、全体のホコリやシミを別の紙に吸い取らせる方法で、本紙の洗浄をしました。

② 肌裏紙・増裏紙の裏打ち



洗浄が終わると、肌裏紙・増裏紙を本紙の裏側に貼って、本紙の補強をします。紙はとても薄い美濃紙 (現在の岐阜県で作られる楮こうぞでできた和紙) などを使用し、でんぷんのりで貼り合わせます。

③ 付け廻し・総裏打ち



本紙がきれいになると、いよいよ表装です。表装に使う裂 (布) は、画題や本紙の色味、古い表装がどのようなものだったかを考慮して選べます。今回は古い表装がないため、本紙がより良く見えるように選びました。裂を本紙に貼り合わせ、最後に表装の裏面にあたる総裏打ちを行いました。

④ 仕上げ



最後に、掛軸として仕上げるために、掛緒（掛軸をかけるための上側の紐）や軸木（掛軸を巻き取るための木）を取り付けて、作品は完成です。しかし、作業はこれでは終わりません。作品を保管するための箱や、作品を巻くときに本紙への負担を軽減する太巻などを、オーダーメイドで仕立て、修復作業は完了します。

■ 修復後データ

寸法：（本紙）1,375 × 511mm

（表装）2,230 × 650mm（軸寸）703mm

本紙は修復前よりわずかに大きくなっています。これは、折れジワによって縮んでいた部分が伸びたためと考えられます。

■ 修復後調査

作品が修復されたあとも、作業は終わりません。修復した作品は非常に不安定であり、不具合が起こることもゼロではありません。そのため、修復後に作品を調査し、異常がないか確認します。

そして今回の修復・調査結果から、本作品の山際の赤色が明確になり、雁のような鳥の群れもあることから、夕方ころの山間の農村地帯を描いた作品であると推定できました。今後は澤梅谷研究の中で、景物の描き方などの基準作として、調査研究をしていきます。



（当館学芸員 永井優香子）

REPORT 報告

甲冑まつり 3月23日(水)～4月3日(日)



亀城公園で桜が咲き、来館者が多く訪れる3月末の時期に「甲冑まつり」を開催しました。今回の展示では当世具足と呼ばれる戦国時代のころの甲冑をモチーフに現代甲冑師が製作した甲冑8領と兜12頭を展示しました。期間中には甲冑ストラップづくりや現代甲冑師による展示説明会などを催し、甲冑師との交流の時間を楽しまれた来館者も多くいました。

古文書講座 [初級編]



令和3年12月～令和4年3月にかけて古文書講座 [初級編] を開催しました。全5回を学芸員3名のリレー形式で進め、20名の受講者が修了となりました。

応募総数は定員の3倍で申込者の2/3が落選となってしまいましたが、講座で使用したテキスト等は資料閲覧室に配架しております。コピーしていただくこともできますので、ご利用ください。

INFORMATION ご案内

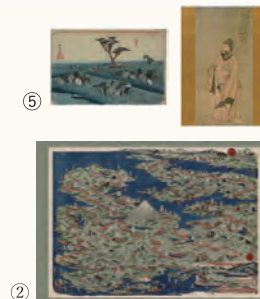
歴博オリジナルグッズが増えました

東海道鳥瞰図を大きくあしらったクリアファイルのほか、刈谷出土の土器や刈谷歴代藩主の家紋をデザインした可愛いマスキングテープが新しく登場しました。



④ オリジナルグッズ一覧 (税込)

① クリアファイル3種 (煉瓦・土器・家紋)	各 300円
② クリアファイルWポケット (東海道鳥瞰図)	400円
③ メモ帳2種 (土器・家紋)	各 300円
④ マスキングテープ2種 (土器・家紋)	各 550円
⑤ ポストカード	150円 / 200円
⑥ かつなりくん定規	330円



オリジナルグッズのほかに可愛いはんかち、ポーチなどが増えて、グッズ売り場がにぎやかになりました。

研究紀要第2号 発売中

刈谷の歴史にかかわる調査研究などをまとめた研究紀要を発行しました。論文「富士松村の成立と学校統廃合」のほか、資料紹介、研究ノートを掲載しています。



定価：500円 販売場所：当館受付

※詳しくはホームページをご確認ください。

簡単工作 (7月～9月)

- ・オリジナルうちわづくり 200円
- ・折り紙「ちょうちん」づくり 無料



土日祝日開催
受付 16時30分まで

◎ポイントカード実施中◎
工作をしながら楽しくポイントを集めましょう♪

カレンダー

7	日	月	火	水	木	金	土	8	日	月	火	水	木	金	土
							1 2								
3	4	5	6	7	8	9		7	8	9	10	11	12	13	
10	11	12	13	14	15	16		14	15	16	17	18	19	20	
17	18	19	20	21	22	23		21	22	23	24	25	26	27	
24	25	26	27	28	29	30		28	29	30	31				
31															
9	日	月	火	水	木	金	土	10	日	月	火	水	木	金	土
							1 2 3								1
4	5	6	7	8	9	10		2	3	4	5	6	7	8	
11	12	13	14	15	16	17		9	10	11	12	13	14	15	
18	19	20	21	22	23	24		16	17	18	19	20	21	22	
25	26	27	28	29	30			23	24	25	26	27	28	29	
								30	31						

- TSUNAGU 一甕のモノたち
- 深溝松平家展 一家忠・忠利・忠房と刈谷
- 休館日

利用案内

開館時間：午前9時～午後5時

観覧料：歴史ひろば・お祭りひろば…無料

企画展示室…企画展ごとに異なります

交通案内

鉄道 JR 東海道本線 逢妻駅 から徒歩約15分
名鉄三河線 刈谷市駅

バス 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」
東刈谷線・逢妻線
「刈谷市体育館」下車 徒歩約3分

車 伊勢湾岸自動車道
名古屋南 IC または豊田南 IC から
約20分

※ 記載内容等は変更することがあります。詳細・最新情報は当館ホームページ、または Twitter をご確認ください。

※ 当館の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の詳細についてはホームページをご確認ください。

編集・発行

刈谷市歴史博物館

KARIYA city Museum of History

〒448-0838 愛知県刈谷市逢妻町4丁目25番地1

TEL.0566-63-6100 FAX.0566-63-6108

URL : <https://www.city.kariya.lg.jp/rekihaku/>



◀ 当館ホームページ
企画展・イベントの詳細や、博物館NEWSのバックナンバーを掲載しています。



◀ 公式 Twitter
最新の情報やイベントの告知など、時々つぶやいています。

※ QR コードはデンソーウェーブの登録商標です。